

第 18 回 MBC ラジオ・KFAストリートサッカー大会 競技規則

1. 競技

- ①基本的なルールは、日本サッカー協会11人制サッカー競技規則による。
- ②以下に掲げる点については、本大会の特別ルールとし、優先とする。

2. 各チームの構成人数

- ①選手は、フィールドプレーヤー4名、ゴールキーパー1名、交代選手5名となる。
- ②交代選手は、ゴール裏の交代ゾーン内で待機し、チームのタイミングで交代すること。
審判に告げる必要はないが、コートの中にいる選手が完全に外に出てから、交代選手が中に入ること。
これに違反し、相手チームの得点を妨害した場合は、相手チームにペナルティーシュートを与える。
- ③選手交代は何人でも、何回でも構わない。再出場も認める。

3. 試合時間

- ・予選リーグ・決勝トーナメント共に、7分1本(ハーフタイムなし)。
- 但し、決勝戦のみ、前後半7分、ハーフタイム3分とする。
- なお、決勝トーナメントにおいて勝敗が決しない場合は、3名ずつのペナルティーシュート方式にて勝敗を決する。

4. 試合開始

- ①試合開始時刻に遅れた場合は棄権とみなし、相手チームに勝ち点3を与える。
- ②審判によるドロップボールをもって試合開始とする。ボールがワンバウンドするまで動いてはいけない。
- ③得点が決まった場合は、決められたチームのゴールクリアランス(GK が手で投げる)から試合再開とする。

5. ゴールキーパー

- ①ゴールキーパーはペナルティーエリアを出てもよい。
- ②ゴールキーパーは足で蹴った場合のみ、直接ゴールを決めることができる。
- ③ゴールキーパーは味方からのバックパスを手で扱ってはならない。
- ④キャッチした場合は敵陣にノーバウンドで、ボールを投げ入れたり、キックしたりして入れることは出来ない。
- ⑤ゴールキーパーはペナルティーエリア内で5秒以上、ボールを保持出来ない。

6. ペナルティーエリア

- ①フィールドプレーヤーは、敵陣・自陣を問わず、ペナルティーエリアに入ってプレーしてはならない。
(注:オンラインも不可)
- ②守備側が自陣のペナルティーエリアに入った場合、入ったライン上から、攻撃側に間接フリーキックが与えられる。
- ③攻撃側が相手側のペナルティーエリアに入った場合、守備側にゴールクリアランス(GK が手で投げる)が与えられる。

7. ペナルティーシュートになるファウル

ボールを持った選手に対して、危険なチャージやスライディングタックルをしたと審判が判断した場合。

<ペナルティーシュートの進め方>

シュートを行う選手は、センタースポットから敵陣ゴールへ向かってドリブルで進み、シュートを打つ。

この時、シュートを打つ選手は敵陣のペナルティーエリア内に入ってシュートを打つことは出来ない。

この間、守備側のGKを除く残り全ての選手は、シュートを打ち終わるまで攻撃者側の陣地に入っていなければならない。シュート後は、通常通りゲームが続行される。(ドリブルスタートまでの間は、競技時間が止まります。)

8. 間接フリーキックになるファウル

①ゴールキーパーが味方からのバックパスを手で扱った場合。

②守備側の選手が、自陣のペナルティーエリアに入った場合(オンラインも不可)。入ったライン上から再開する。

③ゴールキーパーがペナルティーエリア内で5秒以上ボールを保持した場合。

④ゴールキーパーがキャッチしたボールを敵陣にノーバウンドで、投げ入れたり、キックした場合。

ハーフウェイラインから再開する。

⑤守備側の選手は、ボールから2m以上離れなければならない。

⑥その他、サッカー競技規則に準ずる。

9. アウトボール

①ボールがサイドバリアを超えた場合、試合開始時と同様の形で再開する。

②ボールがエンドバリアを超えてしまった場合、どちらのチームが最後にボールを触ったかに関わらず、ボールが出たエンドバリア側のゴールクリアランスで再開する。

10. ファウル

審判は反則やスポーツマンらしくからぬ行為に対し、以下のような罰則を課すことが出来る。

<警告>イエローカードの提示(1試合に2回警告を受けると退場。)

悪質な反則により警告を受けたプレーヤーは、それ以後、試合終了まで出場を認めない。

但し、代わりの選手を入れることは出来る。

<退場>レッドカードの提示

チームは残り時間を一人少ないまままで試合を続ける。

11. その他

①オフサイドはありません。